

令和５年度 第７回庄内地区「子どもの声を聞く会」 発表者

学 校 名	氏 名	題 名
庄内小学校 ６ 年	鮫島 蒼侑	みんなとつながって
菓子野小学校 ６ 年	岡元 夢歩	庄内地区の素敵なところ
乙房小学校 ６ 年	時任 彩禾	乙房地区の伝統を守る
庄内中学校 １ 年	中野 くるみ	災害から庄内を守るために
庄内中学校 ２ 年	多田 悠士朗	庄内の魅力と課題

みんなとつながって

庄内小 ６ 年 鮫島 蒼侑

ぼくにとっても６年生のみんなにとっても、小学校最後の３学期が始まりました。庄内小の自慢は、みんなが仲良く過ごしていることです。特に、ぼくたちのクラスは、みんなが仲良くつながっていると思います。毎朝、登校してすぐに、お互いに呼びかけ合って校庭に集合してボランティア活動を全員で頑張っています。４月から、今日まで、雨の日以外は、継続して取り組んできました。「おはよう」の声が、校庭で響くことは、すがすがしく気持ちがいいと実感しています。ボランティア活動が続けることで、ぼくたちの絆は、さらに強くなっていきました。あいさつと言えば、庄内地区では、明るいあいさつも心のプレゼント運動の一つになっています。庄内小の朝のあいさつ運動は、ボランティア活動に取り組みながら、気持ちよく広がっています。

そして、もう一つの庄内地区の心のプレゼント運動である、ありがとうの心についても、家でのお手伝いを継続することで家族に喜んでもらっています。庄内地区には、素晴らしい取組があると思います。

６年生になって、総合的な学習の時間に庄内地区の伝統芸能継承について学習しました。そこでは、これまでに、知らなかった庄内地区の歴史や文化について、詳しく知ることができました。まず、庄内小の創立についてですが、庄内小の創立は、西郷隆盛の部下であった三島通庸が初代校長先生としてスタートしました。その三島氏は、庄内地区の発展に貢献した中心人物です。鹿児島から違う土地に来て、開拓するには大変な苦労があったようです。しかし、人の為に一生懸命に働く人は、人々の心を動かしていったようです。

また、伝統芸能継承活動として、夫婦踊りと南洲太鼓を体験しました。南洲太鼓は、西郷隆盛の御霊に対して、打ち鳴らしたことが始まりと言われ、今でも継承されています。毎年、西区の夏祭りに行っていましたが、それが、西郷隆盛に関係しているこ

とだということが分かりました。そして、夫婦踊りも、6年生全員で練習しました。教えてくださった末原さんご夫婦の熱心さに感動しました。700年前から伝わる関之尾の滝の夫婦の物語を教えてくださいました。90歳を超える末原さんの、伝統芸能を守っていこうとする意志の強さに、みんなが感動しました。だから、庄内ふるさと祭りでは、みんなで、気持ちを込めて踊ることができました。この他にも、庄内地区に伝わるいくつかの伝統芸能があります。しかし、それらの継承が難しくなっていることも事実です。受け継いでいく人たちが減ってきているからです。そこで、ぼくたちは、庄内地区の歴史や伝統芸能継承活動についてクラスのみんなで分担して、調べてまとめる活動も行いました。

以上のように、日頃のボランティア活動を続けることや歴史や文化を知り、守っていくことについてまとめてきましたが、これらに共通することがあります。それは、人と人とがつながっていることです。つまり、人の心が一つになっていくことです。ボランティア活動の継続は、もちろんですが、長い長い歴史や文化を伝えてきたことは、人と人がずっとつながってきたからです。このような庄内地区は、本当に素晴らしいと思います。ここに住んでいることに誇りを感じることができます。だから、これからは、ぼくたちが、後輩たちに、庄内をもっと知ってもらえるような活動をしななければいけないと思います。残りの小学校生活の中で、後輩たちに、庄内の歴史や文化について発表できるように行動していこうと思います。先月、ぼくたち6年生は、庄内地区を紹介するスライドを作りました。

庄内のすばらしさを発信していくことで、いろいろな人に、庄内に興味や関心をもってもらい、庄内をもっともっと好きになってほしいと思います。

これからも、庄内を誇りに思い、友達や地域の方々とつながって生きていきたいと思っています。

庄内地区の素敵なところ

菓子野小学校 6年 岡元 夢歩

私は、自分が住んでいる庄内地区は素敵なことであふれていると思います。今日は、私を感じる庄内地区の素敵なところを述べたいと思います。

まず、庄内地区の素敵なところの1つ目はあいさつです。菓子野小学校もあいさつがとても自慢です。登下校中、地域のおじいちゃんやおばあちゃんが「おはよう」とか「いってらっしゃい」とか笑顔で言ってくれます。私は、あいさつをしてくれると、とても嬉しい気持ちになり、心が暖かくなります。それから、朝早くから見守り隊の方が私達のことを見守ってくださって、元気にあいさつをしてくれます。朝からとても暖かい気持ちになりいつも安心して登校できます。ですが私は、恥ずかしい気持ちから自分のあいさつの声が小さいと感じることがあるので、これからは笑顔で元気な

声であいさつをしていきたいと思います。

庄内地区の素敵なおところの2つ目は、町がきれいなところですよ。道を歩いていると、「ゴミが少ないな」と思ったことはありませんか。それは、庄内地区の方がボランティアをしてくれたり、リサイクルなどでゴミを減らしたりしているからだだと思います。私も実際に、地区のゴミ拾いに参加したことがあります。そこで、庄内地区にはあまりゴミが落ちていないことに気付きました。ゴミ拾いを年に何回かすることで、ゴミを減らすことができ、嬉しい気持ちになります。また、買い物をする時、エコバックを持っていくことで、袋をもらわないので、ゴミを減らすことができます。このようなことをすることで、持続可能な環境目標SDGsの12個目の目標「つくる責任つかう責任」の目標達成につながると思います。私自身もこれから継続して環境のために行動していきたいです。

庄内地区の素敵なおところの3つ目は、伝統芸能です。みなさんは庄内地区の伝統芸能を知っていますか。庄内地区には「今屋俵踊り」や「子供熊襲踊」など昔から受け継がれている伝統芸能があります。中でも今屋俵踊りは、菓子野小学校で平成18年から3・4年生が運動会で披露しているそうです。私も、実際に今屋俵踊りを運動会や11月にあったふるさと祭りで踊ったことがあります。学校に保存会の方に来ていただき踊りを教えてもらったり、公民館で踊りを合わせたりしました。ふるさと祭りで保存会の人たちに「いっしょに踊ってくれてありがとう。とてもよかったよ。」と言われてとてもうれしかったです。そして、受け継いでいくことが大事だと思いました。私は、これからも今まで続いてきた伝統芸能が途中でとぎれることがないように、地域の伝統を受け継いでいきたいと思っています。

私は、素敵なおことがあふれているこの庄内地区が大好きです。私には夢があります。それは、保育士になることです。その夢を叶えるために今できることは勉強なので、今は勉強を頑張り、多くのことを経験し、立派な保育士になって、庄内地区で働きたいと思っています。そして、保育士として庄内地区の素敵なおところを子ども達にたくさん伝えていきたいと思っています。

乙房地区の伝統を守る

乙房小6年 時任 彩禾

今、演奏したのは「乙房奴踊り」です。私たちの乙房地区に伝わる伝統芸能です。奴踊りは、江戸時代から、お祭りやお祝いで踊られてきました。宮田孝之助氏が校舎を寄付されたときや日向庄内駅が完成したときも、奴踊りが踊られたそうです。一時期、奴踊りは途絶えていたそうですが、平成11年に地域や保護者の皆様、学校の先生方が、復活に向けて献身的に動かれ、苦勞の末、民俗芸能伝承研究会が発足したそうです。それから27年間続いています。私もこの研究会に4年生から所属し、地域

の方に教えていただいています。

乙房奴踊りは、三味線や太鼓の演奏、唄、踊りをすべて、私たち子どもだけで担当し、披露しています。生演奏や生唄に合わせて踊ることは、これまでの卒業生からずっと受け継がれています。

私が研究会に入ろうと思ったきっかけは、2年生の頃、当時研究会に所属していた姉に、家で三味線を教えてもらい、興味をもったことからです。また、初めて奴踊りの演奏を聞いたとき、一生懸命に演奏している5年生と6年生を見て、こんなふうに演奏できるようになりたいと思ったからです。所属して間もない頃は、分からないことばかりの私に、地域の方や上級生が丁寧に教えてくださり、安心して練習に取り組むことができました。

5年生では、地域の方や上級生と1対1で練習をしたり、全体で合わせたりと練習を重ね、2学期には上級生と一緒に演奏できるまでに上達しました。同級生みんなで声をかけあい、励まし合いながら練習をしたことがよい思い出となりました。

6年生1学期には、昼休みや放課後に自主的に練習をしたことで、5年生の頃よりもさらに音色やリズムが合うようになりました。

コロナで中断されていた地域の行事が本年度から再開され、「乙房神社夏まつり」や「乙房敬老祭り」「乙房苑ふれあい祭り」「庄内ふるさと祭り」など、様々な場面で演奏させてもらいました。演奏が終わるたびに、「がんばったね」や「上手だったよ」「すごかったね」と、三味線を教えてくださった地域の方や、楽器の運搬をしてくださった方々から温かい言葉をたくさんかけていただきました。それを聞いて、私は、練習をがんばってよかったと強く思いました。そして、まわりで支えてくださった方々へ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これまでを振り返ると、教えていただけることは当たり前のことではなく、とてもありがたいことだと改めて思いました。3学期はこれまでの経験や感じたことを、伝承芸能研究会の中で、4年生や5年生に伝えていきたいです。そして、私が三味線をこれからも続けていくことで、乙房地区の伝統芸能である奴踊りを守っていきたいと思います。

最後に、乙房地区の伝統である奴踊りをもっとたくさんの人たちに知ってもらえるとうれしいです。

災害から庄内を守るために

庄内中学校1年 中野 くるみ

皆さんは、庄内の町にどんな人が住んでいるか知っていますか。子どもから、ご高齢の方まで、幅広い世代の方にお会いします。最近では、外国の方をよく見かけるようになりましたが、皆さんも話すことはなくても、町で見かけたことのある人は多い

のではないのでしょうか。話は変わりますが、今年の初めには震度7の地震と、それに伴う津波によって甚大な被害を被った「令和6年能登半島地震」が起きました。今回の地震で、「帰省している若い人がいて、高齢者だけにならないで良かった」という書き込みを目にしました。庄内地区も、高齢化が進み、高齢者が多い地域もあるのではないのでしょうか。また、日本は地震が多い国で、南海トラフ地震も近々起こると予想されています。この都城でも大きな被害が出ると予想されています。庄内でも大きな被害に備えていますが、外国の方々や、様々な年齢層に対する対応を考えることが大切だと感じました。地区でハザードマップや災害時の対応の仕方のチラシを配付したりしていますが、外国の方は日本語では読むことができません。それに、目の不自由な高齢の方々もたくさんいらっしゃるの、ポスターなどの紙だけでは伝わらないのではないかと疑問に思いました。そこで、私が考えた案は2つあります。

1つ目は、外国の方々に対する対応についてです。ポスターやハザードマップを英語などの外国語で書いて色々な所に貼るといのはどうでしょうか。また災害のときの対応だけに限らず、この町の魅力や注意事項なども英語等で発信できたらとても便利だと思います。

2つ目は、地域の絆を深め助け合うということです。高齢者の方々は、目や耳、足など体の不自由な方も多いと思います。そして、庄内には高齢者の方が多い地域もたくさんあります。もちろん自分の命が最優先ですが、周りの人を助けることも大事なのではないのでしょうか。そういった事を、ポスターなどで知らせることに加えて、講習会なども開いて理解を広めていくことも必要だと思います。万が一、災害が起きたときの対応の仕方や日常的にみんなで助け合うことの大切さ、予想される被害など、普段の生活や避難訓練だけではわからないことを呼びかければ、被害を最小限におさええることができると思います。

日本は、地震の発生率が世界で4位と、災害が多い国です。庄内は内陸部なので津波の心配はありませんが、万が一のことを考えて、常に準備しておくことが大切だと思います。「備えあれば、憂いなし」といいます。お節介なくらい、地域で助け合うことも大切だと思います。色々な人と関わっていくことも大切です。庄内を「一番被害の少なかった町」にできるように、住民みんなで助け合っていけたらいいなと思います。そのために私は率先して地域をリードする人になりたいです。常日頃から防災や地域のことを意識して、何かあった時に周囲に声をかけたり、率先して避難したり、積極的に行動できる人でありたいと私は考えています。

庄内の魅力と課題

庄内中学校2年 多田 悠士朗

皆さんは「庄内の良さ」と聞いて何を思い浮かべますが。私たちの住む庄内にはた

くさんの良さがあります。その中でも私は「地域とのつながり」と「犯罪の少なさ」に注目してみました。

まず「地域とのつながり」について考えてみたいと思います。庄内は地域の方々とのつながりが深く、いつも挨拶をすると気持ちの良い挨拶を返してくれます。挨拶をすることは、人とつながるためのとても良い方法です。だから私は地域の方々とのつながりを深めるために積極的に挨拶しようと思います。また、庄内はまちづくり協議会を中心に、たくさんの地域の方々が学校の活動に協力して下さっています。例えば、体育大会では毎年、写真を撮って、私たちに配付してくださる方がいらっしゃいます。1年生の地域巡見では、地区について詳しく教えて下さる方々がいらっしゃいます。受験が近づいた3年生を対象に面接練習をして下さる方もいらっしゃいます。そんな方々に感謝の意を伝えるためにも日ごろから挨拶を心がけ、積極的に地域のボランティアに参加したいと思います。

次に「犯罪の少なさ」について考えます。庄内は治安が良いと言われています。町の方々が温かく、優しいからだと思います。みんなが安心して生活できるこの町に育ったことを私は誇りに思います。これからもっとたくさんの方がこの町の住み心地の良さを知ってくれるといいです。その反面、問題もあります。その問題は身近なところに潜んでいます。例えば、私が通っている庄内中学校では、自転車の施錠ができていない現状があります。これは防犯への意識の低さの表れだと感じています。「犯罪が少ない」ことは良いことですが、今ある環境に甘えるだけでなく、自分たち自身で、その環境を守っていく意識をもちたいです。

先述の通り、庄内には良いところがたくさんありますが、自分たちが明るく楽しく生活するためには解決しなければいけない課題もたくさんあります。「伝統芸能の後継者不足」や「人口減少」などです。これらは、私たち一人ひとりの意識が問題の解決につながるのですが、時間もかかるし、私たちだけの力では難しい問題です。そこで私たち中学生でもすぐに取り組むことができる課題が「ごみ問題」だと考えました。そう考えるようになったきっかけは、通学路にごみが落ちているのを見つけたことです。よくまだ使うことができそうな傘などが落ちているのを見かけます。これを見た時私は、「使えるのに捨てるのはもったいない」と思いました。しかし、よくよく考えると日常生活の中でまだ使える物を捨て、新しい物を買っていることに気付きました。今、学校でも社会でもSDGsという言葉をよく耳にします。物を大切に、自分の身のまわりにある物を大事にすることが一番のSDGsなのではないかと思います。また、人は見ようとするものしか見えません。だから意識して普段から見ようとするのが大切なのだと改めて認識しました。

私は今回、この発表内容を考えるまで庄内の町についてあまり深く考えていませんでした。自分から見ようとしたことで、前より庄内のことが好きになりました。だからこそ、この機会を通じて感じたことや考えたことはたくさんの人に伝えていこうと思います。そして、少しでもこの町の発展につなげることができる人になりたいです。